

# 宮城県南三陸町 大仏を安置する 聖地になるための儀式



2018年11月30日（金）午前10時、浄心庵精舎から大長老をはじめとする比丘サンガの5名は、KO NAYE MYO AUNG様と KO TIN U様をはじめ、ミャンマー人、日本人のボランティアグループ、そして活動をご支援なさっている株式会社 阿部長商店代表 阿部泰浩様とご家族のご招待で、宮城県南三陸町に向けて出発されました。途中、食事のご供養をお受けし、休憩を数回はさんで、目的地のホテルに到着したのは午後6時過ぎという大変な長旅でした。東北地方の中でも、この海岸線一帯は、2011年の東日本大震災の大津波によって特に甚大な被害を受けた地域です。

ホテルのロビーには、震災と復興の状況を説明する映像やパネルなどが展示してありました。説明をいただき、この南三陸ホテル観洋他、関連グループを統括する株式会社 阿部長商店の創業者であり現会長の阿部泰児様と代表の阿部泰浩様を中心に、多くの方々が一丸となって、平和を願い当地の復興に力と心を尽くして活動しておられることがわかりました。

お迎えいただいた皆さまは、大長老に要請を重ね、やっと実現したこの機会を待ちわびていました。翌日、大長老のミャンマー語と日本語での、お導きにより、儀式は執り行われました。

2018年12月1日（土）午前8時、宿泊先の南三陸ホテル観洋から気仙沼方面に向かって程近く、「海に見える命の森」という看板が掲げられた小高い山の入口までバスで移動し、徒歩の山登りとなりました。頂上に到達すると、仏教旗が無数にはためき、眼下には太平洋に面した志津川湾が広がっていました。

2019年3月11日（月）には、ミャンマーからこの場所に「アバヤ ラーバ ムニ」“Abhaya Lābha Muni”（恐れを除き幸福をもたらす大仏）という名前の大仏を運んで安置する予定となっています。その目的は、次の3つです。



## 大仏を安置する三大目的

1. 東日本大震災で亡くなられた人々、生命のご冥福と慰霊  
2011年3月11日、東日本大震災で亡くなられた人々、生命が、善い結果を得て、善いところに生まれ変わるために
2. 土地一帯の災害・恐怖の忌避と鎮護  
地震、台風、津波などの災害や危険が起こらないように
3. 世界平和祈念  
震災のボランティアに励む人々や、被害に遭われた人々をはじめとして、日本、ミャンマーの国民、世界のすべての生きとし生けるものは、平和で幸せであるために。誰もが大仏を参拝でき、善い結果を得て平和をもたらすために

これらの3つの目的で、大仏を安置する前に、この場所、土地が淨らかな聖地になるために、大長老をはじめ、比丘サンガによって「大仏を安置する聖地になるための儀式」が厳かに執り行われました。



土地の上に敷かれたブルーシートの上に仏具を整え、大長老を導師としてナモータッサ礼拝偈文を唱えて儀式は始まりました。続けて参加者に三帰依と五戒が授けられた後、比丘サンガによる護経、そして「アバヤナンタラーイカカンマワーサー」“Abhayānantarāyika Kammavācā”という、偉大なる七仏の威力によって、恐れや危険、障害がなく、安楽で平和な土地にするためのお経が唱えられました。

最後にこの日行われた全ての功德を東日本大震災で亡くなられた方々をはじめとして、その土地の神々、すべての生きとし生けるものに回向いたしました。そして、頂上一帯に護経のお水と、八大仏跡の土を混ぜ込んだ白砂を撒いて、「大仏を安置する聖地になるための儀式」は完了しました。



今回、大長老をはじめ、5名の比丘サンガが南三陸町に赴かれたことは、当会にとって、そして日本国にとって大変意義深く、比丘サンガが現地を訪れ直接回向されるということは、極めて稀なことと存じます。三宝の威力によって、また、偉大な功德、波羅蜜を具えていらっしゃるセヤードーをはじめ、比丘サンガの戒・定・慧の威力によって、東日本大震災で亡くなられた人々・生命、今も尚苦しんでいる生命、そして生きとし生けるものに、平和・幸福がもたらされますように。

日本上座仏教修道会として、また日本国民の一人として、三宝と三宝の師であるセヤードーと、今回ご来日された比丘サンガの皆さまをはじめとして、「大仏を安置」に携わるミャンマー人、日本人のボランティアグループ、阿部泰浩様ご家族の皆様、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

皆様方の大きな功德によって、南三陸の人々をはじめ、すべての生きとし生けるものが平和で幸せでありますよう、心から念じお祈り申し上げます。

※「比丘サンガ26日間のご活動」についての報告は、次号に引き続き掲載いたします。（次号へ続く）